

南蛮屏風集成

坂本 満他 編著



A Catalogue Raisonné of *Namban* Screens

刊行にあたって

日本を訪れたスペイン・ポルトガル人の姿を描く南蛮屏風の現存数は、九〇点をうわまわっている。これほど大量に類似する図様の屏風が作られたという事実自体も、一つの文化現象として興味深い。日本絵画史研究において、南蛮屏風を対象とする研究が十分に深められてきたとは言いがたい。多くの課題が残されている。

岡本良知・高見澤忠雄氏による大著『南蛮屏風』（鹿島研究所出版会）は一九七〇年に刊行され、それは、六〇点の作品を掲載する南蛮屏風の網羅的図録として画期的な著書であった。しかし、それから三五年以上を経過した現在まで本格的な南蛮屏風の研究書は公刊されず、その後、新たに発見された南蛮屏風の紹介も散発的なものにとどまってきた。

南蛮屏風研究が進捗しなかった理由のひとつは、ごくひとにぎりの、有名な屏風以外は、屏風の図版が公開されてこなかったということにある。本書は、今後の南蛮屏風研究のためには、現時点で把握しうるすべての南蛮屏風について、その図様を確認しうる良好な図版を掲載した総目録が必要であるという認識のもとに、企画されたものである。





10 個人蔵 (T家) 本 (和歌山・雲蓋院旧蔵本) 六曲一双



『南蛮屏風集成』 目次

はじめに

目 次

凡 例

図 版 (南蛮屏風 91 点)

論 文

近世初期風俗画としての南蛮屏風

—— その誕生から変貌まで ——

成澤勝嗣

異文化に対応する表現

—— 「異国趣味」の諸問題 ——

坂本 満

図版解説

図版目録

参考文献・主な展覧会

英文要旨・英文図版目録

■収録屏風

I 初期作例群 ——慶長期の作例とその図様構成

- (1) 日本と唐とを組み合わせる図様
 - 1 大阪城天守閣本
 - 2 九州国立博物館本 A
- (2) 日本と想像上の異国とを組み合わせる図様
 - 3 神戸市立博物館本 A (内膳本)
 - 4 所在不明 (笠原家旧蔵) 本
 - 5 サントリー美術館本
- (3) 日本のみを描く図様
 - 6 南蛮文化館本 A
 - 7 宮内庁三の丸尚蔵館本
 - 8 個人蔵 (ギネット家) 本 (残欠)
 - 9 個人蔵 (K 家) 本
 - 10 個人蔵 (T 家) 本 (和歌山・雲蓋院旧蔵本)

II 継承作例群

- (1) 日本と唐とを組み合わせる図様の継承作例
 - 11 ボストン美術館本 A
 - 12 個人蔵 (Y 家) 本
 - 13 リスボン国立古美術館本 A (金子家旧蔵本)
- (2) 日本と想像上の異国とを組み合わせる図様の継承作例
 - (i) 〈3 神戸市立博物館本 A (内膳本)〉の継承作例
 - 14 所在不明 (川西家旧蔵) 本
 - 15 文化庁保管本
 - 16 リスボン国立古美術館本 B
 - 17 リスボン・東方基金本
 - 18 個人蔵本
 - 19 国立歴史民俗博物館本 A (原田家旧蔵本)
 - 20 個人蔵本
 - 21 南蛮文化館本 B
 - 22 西蓮寺本
 - 23 唐招提寺本
 - 24 ボストン美術館本 B
 - 25 所在不明本 (残欠)
 - 26 所在不明 (高見澤家旧蔵) 本 (残欠)
 - 27 所在不明 (三正旧蔵) 本 A
 - 28 大安寺本
 - (ii) 〈4 所在不明 (笠原家旧蔵) 本〉および〈5 サントリー美術館本〉の継承作例
 - 29 東京国立博物館本
 - 30 神戸市立博物館本 B (談山神社旧蔵本)
 - 31 大阪青山歴史文学博物館本
 - 32 川村記念美術館本
 - 33 三井記念美術館本
- (3) 日本のみを描く図様の継承作例
 - (iii) 〈6 南蛮文化館本 A〉の継承作例
 - 34 ボストン美術館本 C
 - 35 リスボン国立古美術館本 C
 - (iv) 〈7 宮内庁三の丸尚蔵館本〉の継承作例
 - 36 サンフランシスコ・アジア美術館本
 - 37 バーク・コレクション本
 - 38 フリア美術館本
 - 39 神奈川県立歴史博物館本 (東本願寺大津別院旧蔵本)
 - 40 ヴィクトリア & アルバート美術館本

- 41 MOA 美術館本
- 42 所在不明 (中井家旧蔵) 本 (残欠)
- 43 大阪市立美術館本 (残欠)
- 44 ボストン美術館本 D (残欠)
- 45 ポートランド美術館本
- 46 所在不明本
- 47 所在不明 (山中商会旧蔵) 本
- 48 国立歴史民俗博物館本 B
- 49 クリーブランド美術館本
- 50 天理大学附属天理図書館本
- 51 本泉寺本
- 52 神戸市立博物館本 C (残欠)
- 53 所在不明本
- (v) 〈8 個人蔵 (ギネット家) 本〉および〈9 個人蔵 (K 家) 本〉の継承作例など
 - 54 北方文化博物館本
 - 55 ピーボディ・エセックス博物館本
 - 56 国立ソアレス・ドス・レイス博物館本
 - 57 シカゴ美術館本
 - 58 九州国立博物館本 B
 - 59 長崎歴史文化博物館本
 - 60 出光美術館本
 - 61 個人蔵 (N 家) 本
 - 62 アムステルダム国立博物館本
 - 63 個人蔵 (S 家) 本
 - 64 富山市佐藤記念美術館本
 - 65 個人蔵本 (宝幢寺旧蔵本)
 - 66 個人蔵本
 - 67 ギメ美術館本
 - 68 所在不明 (池長家旧蔵) 本
 - 69 デイトン美術館本
 - 70 堺市博物館本 A
 - 71 室生寺本
 - 72 松岡美術館本
 - 73 逸翁美術館本 A
 - 74 所在不明 (平尾家旧蔵) 本
 - 75 個人蔵本

III 交易図系統の作例群

- 76 逸翁美術館本 B
- 77 岡崎市立図書館旧蔵本
- 78 所在不明 (山中商会旧蔵) 本
- 79 太平洋セメント本
- 80 埼玉県立歴史と民俗の博物館本
- 81 個人蔵本 (西村家旧蔵本)
- 82 神戸市立博物館本 D (粉本)
- 83 南蛮文化館本 C
- 84 所在不明本
- 85 堺市博物館本 B
- 86 神戸市立博物館本 E (残欠)
- 87 パワーズ・コレクション本
- 88 個人蔵 (O 家) 本
- 89 個人蔵本
- 90 所在不明 (三正旧蔵) 本 B

IV その他

- 91 観心寺本 (残欠)



1 大岡城大守御本 左巻第4部・第5部



1 大岡城大守御本 右巻第2部・第3部



1 大岡城大守御本 一巻目右巻第1部・第2部

大岡城大守御本



大岡城大守御本は、徳川幕府の成立を記念して、大岡越前守の御守り本として制作された。この巻は、大岡越前守の御守り本の一部であり、大岡越前守の御守り本の一部である。この巻は、大岡越前守の御守り本の一部であり、大岡越前守の御守り本の一部である。この巻は、大岡越前守の御守り本の一部であり、大岡越前守の御守り本の一部である。

大岡城大守御本は、徳川幕府の成立を記念して、大岡越前守の御守り本として制作された。この巻は、大岡越前守の御守り本の一部であり、大岡越前守の御守り本の一部である。この巻は、大岡越前守の御守り本の一部であり、大岡越前守の御守り本の一部である。



大岡城大守御本は、徳川幕府の成立を記念して、大岡越前守の御守り本として制作された。この巻は、大岡越前守の御守り本の一部であり、大岡越前守の御守り本の一部である。この巻は、大岡越前守の御守り本の一部であり、大岡越前守の御守り本の一部である。

二〇〇八年二月刊行

A3判上製函入 カラー図版二九二ページ 本文一二四ページ

定価 50,400円（本体48,000円＋税）

編著者代表 坂本 満（国立歴史民俗博物館名誉教授）

編著者 成澤勝嗣（神戸市立小磯記念美術館）

泉 万里（大阪大学教授）

日高 薫（国立歴史民俗博物館准教授）

澤田和人（国立歴史民俗博物館助教）

中野満美子

ISBN978-4-8055-0564-9 C3071



本書の特色

■新出資料を含め世界中から集めた九一点の南蛮屏風の総目録

南蛮屏風の総数は、二〇〇七年時点で国外に所蔵される作例も含め、九〇点あまりの多数にのぼる。本書は、そのすべてについて、可能なかぎり良質な図版を収録し、実地調査にもとづく図版解説と、二つの総論を加えた南蛮屏風の総カタログである。一九七〇年に岡本良知、高見澤忠雄両氏による、その当時知られていた六〇点の南蛮屏風を掲載した大著『南蛮屏風』（鹿島研究所出版会）の刊行以来、約四〇年の時をへだてて編集された、あらたな南蛮屏風の総合図録の決定版である。

■A3判の大型本。オール・カラー二九二頁にわたる図版。

■最新の情報と知見を豊富に含む図版解説

南蛮屏風の図様の細部まで確認できる大型カラー図版を、全図はもとより、部分拡大図も含め、多数掲載する。その細部表現はきわめて多彩であり、ひとつとして同じ図様の屏風が無いことに驚かされる。図版解説は、本書作成に向けて実施した五年間にわたる共同研究と調査の成果であり、最新の情報と知見を豊富に含む。従来の分類法にかえて、あらたな南蛮屏風の系統分類と体系化を試み、制作年代や来歴なども含む、個別の屏風の特徴を詳述する。絵画史のみならず、漆工や染織など工芸史の観点からの見解も加え、いままでにない充実した内容の図版解説とした。

■南蛮屏風研究の最前線を展望

本書の使命は、現時点でその存在が知られているすべての南蛮屏風の図版を、適切な解説とともにひろく公開することである。そして、南蛮屏風全体を展望する論考も収載することによって、研究の現状を総括し、今後の南蛮屏風研究の資となることを期待する。

■本書をお薦めする方々

美学・美術史研究者、東西交渉史研究者、日本史研究者、文化史研究者、文化財保存研究者、美術愛好家、大学図書館、大学研究室、図書館、美術館、博物館、古美術商など

◀表紙 神戸市立博物館本 A（内膳本）左隻部分

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7
電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

お取り扱い